

平成21年 新春懇談会

年 頭 に あ た り

平成21年1月9日

礼文町長 小野 徹

新年あけましておめでとうございます。

平成21年の輝かしい新春をみなさんとともに迎えることができましたことを心からお慶び申し上げます。

また、本日は、新年早々のお忙しい中、ご出席を賜り厚くお礼申し上げますとともに、日ごろから町政の推進にあたり大変温かいご理解とご協力をいただいておりますことにあらためて心から厚くお礼申し上げる次第でございます。

さて、今年、昭和34年9月に「町制」が施行され「礼文町」になってから半世紀。

ちょうど「50年」という記念すべき年であります。

先人のたゆまないご努力の上に、礼文町は日本最北端の離島という地理的条件と幾多の困難を乗り越えて、今日の繁栄を築きあげてくることができたところでございまして、多くの皆様に心から感謝を申し上げます。

また、ただ今、町の表彰条例に基づいて「功労者表彰式」を行なわせていただきましたが、本日受賞された皆様方も、長年にわたり、それぞれの分野で、常に情熱をもって献身的にその職務に精励され、郷土礼文町の発展のために地域を災害や火災から守り、住民の福祉向上や青少年の健全育成に尽力され、或いは、ふるさと礼文のために多額のご寄付をされるなど、「子や孫のために大きな夢の種をまかれてこられた」皆様方でございます。多大なるご功績を賜りました功労者の皆様に、心より深甚なる敬意と感謝を申し上げます。次第でございます。

礼文町は、皆様方の大きなお力に支えられて、今日の繁栄が築き上げられてきたところでございます。

今、私たちも、多くの先人に感謝しながら、次の世代に「輝くふるさと礼文町」を引き継いでいかななくてはなりません。私は、2009年を、礼文町に元気をとりもどし、輝ける年とするため、更に全力を傾けてまいりたいと考えておりますので、尚一層のご理解ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は、アメリカ発の金融危機に端を発した世界的な景気後退から、我が国の「景気」「雇用」は大きく落ち込み、経済はすっかり冷え込んでしまいました。今こそ、国境を越えた金融秩序の回復と新たな景気対策が求められているわけではありますが、国政においては、依然、「衆参のねじれ現象」が続いており、福田総理が一昨年安倍晋三総理と同じように突然退陣され、麻生太郎新総理が誕生するなど日本の政治も混とんとしております。

そうした中で、ノーベル物理学賞並びにノーベル化学賞を4名の日本人が同時に受賞したことは真に喜ばしく、我が国の誇りであるとともに大変に明るい話題であったと思います。

同時に、私は、今、礼文島の子供たちが「ふるさとに学ぶ」学習に一生懸命取り組んでいることをとても嬉しく思っていますし、その頑張りに大きな拍手を送りたいと思います。

修学旅行では京都駅や札幌駅などで「礼文町観光大使」として全国の皆さんに礼文島をPRし、観光振興や自然保護、環境保護にも大きな役割を担っていただきました。

子供たちが「ふるさと礼文」のことを学びながら、町の将来や地球規模で物事を考えるという、この素晴らしい取り組みが、これからも更に広がっていくことを期待しているところでございます。

また、こうした中であって、去年は香中生徒の見事な頑張りがありました。

野球部、卓球部そして「少年の主張大会」など、みごとに全道大会出場を成し遂げ、町民の熱い期待と声援を受けましたことは大変うれしい限りでございます。

さらに、新聞によりますと、今月の末に芦別市で開かれる「全道中学生バレーボール大会」に宗谷地区の優秀選抜選手として船泊中学校2年生の「木戸はずき」さんが選ばれました。本大会は、将来を嘱望される選手が一堂に集って、技を競いあう優秀者の選抜大会とうかがっております。「木戸はずき」選手のご活躍を心より期待いたしております。

そして、このことは日ごろの教育に寄せる教育関係者の大変なご尽力の賜物でございます。教育関係の皆様方に、あらためて感謝と敬意を表する次第であります。どうぞ、本年も、礼文の教育に限りない、そして温かいお力添いをいただきますよう、心よりお願いを申し上げます。

さて、さきほど世界経済は大変な冷え込みの中にあるというお話をいたしました。お陰様で、本町の昨年の「水産水揚げ」は、燃油の高騰や資材の値上がりはありましたが、前年比7.5%増の37億4千万円と、前年を3億円近く上回る過去5番目となる見込みになったことに、私は、心から感謝をしているところでございます。漁業者のみなさんのがんばりと「礼文の宝の海」のおかげで、本当に大きな水揚げができました。

こうした中で、水産庁のお力添えにより、一昨年の元地漁港に続いて昨年は鉄府漁港の整備再開が決定されたところでございますので、今後も、重要な水産基盤である漁港の整備に努めてまいりたいと思います。

さらにまた、北海道のご支援をいただき、前浜の資源回復と環境に配慮した「海の森づくり」を目的に、漁協と一緒に、水産残渣の利活用と山に木を植える活動を積極的に進め、沿岸漁業の振興対策を推進するとともに、「次代を担う若手の育成」や「価格安定のための付加価値向上対策事業」「構造改善事業」「離島漁業再生交付金事業」などを更に推進し、一層の漁業経営の近代化と生産性の向上を図り、安定した漁業所得の確保に努め、皆さんが安全に、そして、安心して漁業に専念できる環境づくりに努めてまいります。

一方の「観光」であります。ここ数年来、観光入込は

低迷を続けており、昨年も6年連続で入込数の減少が見込まれ、前年比5%減の17万5千人と推計されております。

こうした中、昨年10月には、国の機関として新たに「観光庁」ができました。私は、これからの観光振興が国家プロジェクトとして、さらに推進されるよう大きな期待をしているところであり、今年も、礼文島の恵まれた自然環境の保護と広域での観光PRを積極的に展開してまいりたいと考えております。特に、「宗谷シーニックバイウェイ」や「北海道観光機構」を活用した広域での観光プロモーション活動が必要であります。更に、高山植物培養センターでのレブンアツモリソウの開花調整、また、観光シャトルバスの運行や観光アクセスを確保するためにフェリーダイヤの改善にも努めてまいります。

また、昨年は、町民の皆さんや全国の方々のご協力をいただいて「礼文町マスコットキャラクター・あつもん」が誕生いたしました。「あつもん」は、心に幸せの種を持つレブンアツモリソウの妖精であります。礼文島に住む人と礼文島を訪れる人たちが大好きで、これから、みなさんに愛されるキャラクターとして、町内のさまざまなイベントや町外での観光イベントにも参加し、礼文町の活性化のため、大いに活躍していただきたいと考えております。

今年もすでに7日～8日の両日、東京銀座で礼文島の観光PRを行っておりますので、今後も、皆さんのご声援をよろしくお願いいたします。

更に、今年の秋には、いよいよ、多くのみなさんから温かいご支援をいただけてまいりました待望の「礼文島の温泉入浴施設」が完成し、私たちの永年の夢が叶うときがやってきました。

「礼文うすゆきの湯」は、町民みなさんの温泉でございます。地球からいただいたこの素晴らしい礼文島の温泉が、町民の「健康づくり」と「島の憩いの場・交流の場」として、多くの皆さんに愛されるよう全力でがんばってまいります。

私は、今年、礼文島観光ならではの基本コンセプトを創造し、自然体験や「ゆとりツーリズム」を提案しながら「最北の花の島・礼文島」でゆったりと過ごしていただくよう、全力で観光誘致に取り組み、観光振興を推進してまいります。

「ピンチはチャンス」でもあります。どうか、町民みなさんも「おもてなしの真心」を持って観光ホスピタリティに努め、礼文島を訪ねてくださった観光客のみなさんを笑顔でお迎え下さるようお願いいたします。

さて、昭和53年に開港いたしました「礼文空港」につきましては、礼文島と本土稚内を結ぶ貴重な空の交通アクセスとして運航されておりましたが、搭乗率の低迷等により、平成15年4月から定期航空路が休止となっております。

この間、北海道や関係機関の協力をいただきながら、平成17年には「礼文空港路線誘致委員会」を設立し、民間航空会社の誘致活動を展開する一方で、国や北海道に対し、空港の拡張と航路の再開にむけた要請活動を行ってまいりましたが、結果として、この5年間、滑走路の拡張も定期航路再開の目処も見出せないままに今日に至ったところがあります。こうした中で、昨年6月に、北海道から、今年度以降の「礼文空港の休止」について打診されたところがあります。北海道としては、休止後も、救急搬送や災害等緊急時には、防災ヘリや自衛隊ヘリが離発着できる体制の確保に万全を期するとの回答をいただいておりますし、議会議員の皆さん、空港関係者会議の皆さんと協議した結果でも、現下の状況では「礼文空港の休止」は受け入れざるを得ないと考えておりますので、何卒ご理解をいただきたいと存じます。

なお、近年、医師不足や地方財政の悪化による地域医療の過疎化が社会問題となっている中、国の救急医療対策の一環として、昨年暮れに、「道北地区にもドクターヘリ」の運航が決定したところでございます。当面は半径100kmを想定しているようではありますが、この「ドクターヘリ」は、旭川を拠点とした道北圏において、利尻礼文の離島やオホーツク圏を含めた広いエリアをカバーし、ヘリコプターに医療機器を搭載し、医師や看護師が乗り込み救急現場から治療を行うことや、救急搬送の時間を短縮して救命率を高めていくものであります。

機内でも治療ができる「ドクターヘリ」の配備は、一刻を争う離島の救急医療には大きな力を発揮してくれるものと大いに期待をしているところでございます。

最後になりましたが、地方財政の危機が叫ばれて久しい昨今、お陰様で、本町の平成19年度決算における「実質公債費比率」は前年の26.2ポイントから大きく改善され、危険水域と言われる25ポイントを下回る24.4ポイントと大きく健全化に向けて改善されたところであります。町の起債残高も平成14年度末には119億1千万円ありましたが、この6年間で約36億円の借金を減らすことができ、今年3月末には83億7千万円となる見込みでございます。

これも偏に、町民皆様の温かいご理解とご支援によるものであり、心から厚く御礼を申し上げます。

更に今年は、現在国会で、景気対策として「第二次補正予算」が審議されております。これが通りますと、年度内に所謂「定額給付金」は全国に2兆円、「子育て応援特別手当」は全国に約600億円、「地域活性化・生活対策臨時交付金」が全国に約6千億円交付されるなど、事業費規模で26兆9千億円、国費ベースで5兆円の景気対策が実施されることとなります。本町でも「定額給付金」はおよそ5千万円、「子育て応援特別手当」はおよそ100万円であり、「生活対策交付金」は一億1千万円の交付が予定されているところでございます。

私は、この生活対策交付金を活用して、来年度に予定されている事業の前倒しや補助金がない単独事業などの掘り起こしを行って、冷え込んでいるわが町の景気対策を推進していく考えであり、現在、その準備を進めているところでございます。

去る十二月に行った補正は「一段目のロケット」であり、只今申しあげました第二次補正は「第二弾目のロケット」でございます。二月にも議会を開催させていただいて事業の前倒しを行ないたいと考えております。そして、三月は新年度予算で、今年度に引き続き「元気の出る礼文づくり事業」を含めた新年度の各種事業を実施する「三段目のロケット」を打ち上げ、町の活性化のため景気対策を強力に、かつ、効率的に推進していきたいと考えておりますので、皆様のご理解をいただきたいと存じます。

今年の仕事始めの日、私は職員に昨年ノーベル物理学賞を受けられた京都産業大学の益川教授のお話をいたしました。益川先生は「科学にロマンを持つことが必要だ」と述べられ、「あきらめずに、やり抜くことが大事で、憧れを追い求め、心で育み、成し遂げる努力をする」ことの大切さを説かれております。

また、「勉強は強いられるものだけれども、決して、やらされるものではない。何故かしらと疑問を持ったら、自ら動き出すことが大事なことで、あきらめずにやり抜けば希望をもつことができる」ともおっしゃられました。

私は、まさに益川先生が述べられた「科学にロマンを持つこと」を「行政にロマンを持つこと」に置き換えて「ふるさとの元気を追い求め、心で育み、成し遂げる努力をするよう」、また「ふるさとの元気のために、自ら動き出すよう」と職員に訓示したところでございます。

100年に一度と云われる世界的な景気後退の最中、わが町の経済を好転させ、町の財政も健全な安全水域に達するためには、まだまだ多くの課題を解決しなければなりません。職員ともども、今年も、ふるさとに元気を取り戻すよう全力で務めてまいりますので、どうぞ、皆様方の尚一層のご理解とご支援をいただきますよう心からお願いを申し上げます。

以上、輝かしい新春にあたり所感の一端を述べさせていただきました。

今年一年が、わが町にとりましても皆様方にとりましても素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

“ご清聴ありがとうございました。”